

# 「4月1日」以降の新たな闘いへむけて 第16回動労千葉定期委員会 その一

動労千葉は、三月二十五日県教育会館において第十六回定期委員会を開催し、動労千葉の第一波スト以降、全組合員の必死の闘いが切り開いてきた勝利の地平 実力闘争をもって闘う路線と組織の堅持、動労総連合の結成と国労共闘の強化・拡大、「二企業一組合」粉砕などに確信を深め、四月一日以降の労働条件の確立、二十八名の解雇者と十二名の清算事業団へのレッドパ、ン者、人活センタ から営業係りの発令された者の職場復帰・奪還、鉄道労働解体・一掃、組織・財政基盤の確立へ向けて「四月一日」を出発点に新たな闘いへ決起していく決意をうち固めた。

## 万全な組織・財政基盤の確立を

委員会は、桜沢執行委員の司会のもと、議長に新小岩支部・清水委員を選出した後、中野委員長がいさつに立ち「この二年間、動労千葉は大変な闘いを経験し、この闘いを通して団結を堅持した。このことは、組合員一人ひとりが労働者としての、人間としての誇りを失わずに生きることを守りぬいたといえる。このことに確信をもちこれからの闘いに出発しなければならぬ」「しかし、これからの闘いはいまままでの闘いをはるかに凌駕するものとして、多くの労働運動が経験しなかった本当の闘いに挑戦していくことになる」と述べ、これからの、当面する闘いについて四点にわたって提起した。

第一に、四月一日以降の闘いの基本は二十八名の解雇者を奪還していく取り組みを最重要課題とする。第二に、十二名の清算事業団の仲間を取り戻す闘いと同時に、三月十日配属で営業関係に不当に強制配転された仲間を原職に復帰させる闘いをやりぬく。



「4月1日」以後も断固闘いぬくぞ  
(3月25日、県教育会館において)

第三に、新会社においてし烈な組織攻防戦に突入する。新会社では、この間、敵側が鉄道労連と結託し国労、動労千葉の組合員に対してあらんかぎりの差別・選別攻撃をしかけてきた構造が今後も続けられる。とくに、東日本における組織攻防戦は、し烈化する。これは明らかであり、不当差別、不当労働行為を断じて許さないとともに、何よりも鉄道労連の解体・一掃の闘いが重要である。

御用組合 鉄道労連を使って労働条件を切り下げてくるのが明白である以上、この闘いはわれわれ自身の労働条件を守る闘いでもある。

第四に、これらの闘い貫徹するために動労千葉の組織・財政の基盤を確立すること、そのためには物資販売運動の強化とともに共同購入運動などを解雇者を先頭に全組合員がやりぬかねばならない。

大企業で数万におよぶ首切りがやられ、政府発表でも失業率三パ、セント突破というこれからの大変な時代を乗り切るような労働組合を築きあげよう。

「本定期委員会は、新たな闘いへのチャレンジの委員会だ。今まで経験したことのない地平に向けて大胆に挑戦していこう」と新たな闘いの提起をおこなった。

## 動労千葉のように 闘おう

そして、来賓の動労水戸・福田書記長より「水戸では、強制配転・出向攻撃との対決がすでにはさまっている。六割の組合員がソバ屋、売店、遠距離への強制配転が強行された。三月八日の臨時大会で、これからの本当の闘いであることを全員で確認し、「動労千葉のように闘おう」を合言葉にどこに飛ばされてもそこに支部の旗を立てて闘いぬく」と力強くあいさつをおこなった。

つづいて、船橋市議選を闘いぬいている中江昌夫氏、動労千葉弁護団の清井、葉山両弁護士よりあいさつをうけ、動労連帯高崎のメッセ、ジが紹介された。(次号につづく)